

---

## コラム 15

# JEM のハルツーム進攻事件(2008 年 5 月)

2008 年 5 月 10 日、「正義と平等運動 (JEM)」が、重武装して、首都ハルツームに向かって進攻して、ナイル川の対岸のオムドルマンまで到達し、死者 300 名近くを出す市街戦が展開された。

私はこの時、外務政務官をご案内するために、ジュバにいたが、土曜日の午後に発生したこの事件のため、土・日は、外出禁止令が出され、空港も封鎖され、すぐにはハルツームに戻れなかった。

この事件は実は数日前から、空軍が JEM の部隊が砂漠を横断して侵攻している姿を目撃し、報道もなされていたが、JEM を迎え撃つ国軍の配置が遅れて、多くの犠牲者を出すことになってしまった。

国連関係者の分析によると、「JEM は、政府軍の中にはダルフル出身者の将校・兵士が多く、バシール政権に不満をもつ部隊は、政府軍を離反して JEM に寝返り、首都は制圧できると読んでいたようだ。これに対して政府軍は、絶対に離反しない、バシール大統領に忠誠を尽くす部隊を送り込むことに決めたため、初期の対応が遅れたのが真相。JEM には直ぐに二の矢三の矢を放つ余力はない」とこのことであった。

この事件は 3 日ほどで、JEM の関係者も逮捕され鎮圧されたが、ハルツームは長い内戦中も一度も戦禍を受けたことがなかったため、市民にとっては、大きな衝撃であった。

当時、チャドとスーダンが外交関係が最悪で、チャドが JEM を支援していた。砂漠の中を進攻するためには、先進国の後方支援が不可欠であるため、フランスが関与しているのではという噂も流れた。

以上